

岡谷市製糸遺構調査・文化財調査

諏訪総合設計株式会社
代表取締役 宮坂 正博

旧 山一林組事務所

大正7年建設

簡素にして 機能性・合理性にあふれ、細部に渡り入念に造られている。

製糸家の 考え方をよく理解した上で 設計者の慎ましい造形への 意志をよく具現化している。それは 外部のデザインや、腰の羽目板、建具の枠まわり、カウンターの細部、玄関床の四半敷き模様、便所床の市松の四半敷き、貴賓室の天井等に現れている。

一時代を支えた岡谷の製糸家の事務所の様子を特徴的に表している、貴重な建物である。

旧岡谷市庁舎

昭和11年建設

築67年を経過した鉄筋コンクリートの建物が 保存され 使用されているのは県内でも、数少ないと思われる。

岡谷市内の本格的な鉄筋コンクリート造の建物は 大正14年の岡谷工業高校の校舎、昭和3年の岡谷東高校の校舎と考えられるが すでに耐用年数を超過したとされ 近年 解体されてすでに ない。

平野村役場庁舎として建設されたこの建物は、鉄筋コンクリート造の建設技術が地方に伝えられ、技術的なレベルの向上への努力の中で 建設された歴史的な建物である。

大規模な改修は、2階議事堂の天井、煙突の撤去、便所の改修、1階間仕切りの新設程度で 建設時の様子をよく残している。

使用されている素材も、近隣で調達されたものが多く、設計も 長野で実施されたものと推察される。(時が経過しないうちに詳細な調査が必要である)

明治の時代に 海外から 導入された 鉄筋コンクリート構造の基本を忠実に守り 重厚にして、簡潔、細部にわたり入念に造形されている。

寄せ棟2段に構えた屋根、破風の装飾、タイル面を水平に押さえる人造石洗い出しのボーダー、窓と外壁タイルの割のバランス、玄関正面の装飾や丸窓、風格のある造形は、製糸全盛の岡谷のシンボルとしてふさわしい建物である。